

RPA導入を見据えたシェアードサービス部門のための

好評につき『大阪』・『東京』にて開催！

『フローチャート』と『業務マニュアル』の一体作成法

～ 業務を可視化し改善する ～

《開催要領》 ※講師とご同業の方のご参加はお断りする場合がございます。※最少催行人数に満たない場合、開催中止とさせていただきます。

日 時▶ 2019年10月11日(金) 10時-16時 日 時▶ 2019年10月25日(金) 10時-16時

会 場▶ ホテルコンサルト新大阪 会 場▶ 企業研究会セミナールーム(東京:麹町)

《 ご案内 》

本セミナーは『社内研修』としての開催も可能です。詳しくは下記担当までお問い合わせください。

講 師 (株) プロセス・ラボ / (有) ウィルミッツ 代表取締役 松浦剛志 氏

講師紹介
京都大学経済学部卒。東京銀行審査部にて企業再建を担当。その後グロービス(ビジネス教育、ベンチャー・キャピタル、人材事業)にてグループ全体の管理業務、アントレピア(ベンチャー・キャピタル)にて投資先子会社の業務プロセス設計・モニタリング業務に従事。02年人事、会計、総務を中心とする管理業務のコンサルティングとアウトソースを提供する会社、ウィルミッツを創業。06年業務プロセス・コンサルティング機能をウィルミッツから分社化し、プロセス・ラボを創業。業務現場、コンサルティング、アウトソースのそれぞれの経験から培った業務プロセスを理解・改善する実践的な手法を開発し研修・コンサルティングを提供している。

《申込方法》 当会ホームページ (https://www.bri.or.jp) からお申し込み下さい。

企業研究会Q 検索

■受講料: 1名(税込・昼食代含) ※申込書をFAXでご送頂いたく際は、ご使用のFAX機の使用状況(0発信の有無など)をご確認の上、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

正会員 38,500円(本体価格 35,000円) 一般 41,800円(本体価格 38,000円)

希望会場に「✓」をご記入下さい。

	大阪開催 (10/11)	191146-0101 (※)		東京開催 (10/25)	191145-0101 (※)
ふりがな 会社名					
住 所					
TEL			FAX		
ふりがな ご氏名			所 属 役 職		
E-mail					

※申込書にご記入頂いた個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催事業のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

■申込・参加要領 : 当会ホームページからお申込みください。FAX、または下記担当者宛 E-mail からもお申込み頂けます。

後日(開催日1週間~10日前まで)に受講票・請求書をお送り致します。

※よくあるご質問 (FAQ) は当会 HP にてご確認いただけます。([TOP]→[公開セミナー]→[よくあるご質問])

※お申し込み後のキャンセルはお受け致しかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理出席をお願いします。

■お申込・お問い合わせ先: 企業研究会 セミナー事業グループ 担当/民秋 E-mail: tamaki@bri.or.jp
TEL: 03-5215-3514 FAX: 03-5215-0951 〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-7-2 MFPR 麹町ビル 2F

・プログラム・

■開催にあたって■

業務改善・引継ぎ・監査に対して、フローチャートと業務マニュアルを用意することは一般的な対応としては悪くありません。しかし、残念ながら多くの場合、『マニュアル自体が属人化し引き継がれない』、『業務の変更によりフローチャートの改変がつかない』といった悩みとともに、フローチャートと業務マニュアルが形骸化してしまいます。(株)プロセス・ラボが提唱するアプローチは、【1】2つの連動性を高めフローチャートを業務マニュアルの索引に活用すること【2】業務プロセスを正確に可視化する新発想のフローチャートを活用すること・・・この2つです。既存の手法に疑問、限界を感じているご担当者様の参加をお待ちしております。

■プログラム■

1. フローチャートと業務マニュアルの「あるべき姿」を検討する
 - ・なぜ、業務マニュアルは後任に利用されないのか?
 - ・フローチャートを補完的な位置づけから目次に変える
 - ・一体作成法の意義
2. 従来の一般的なフローチャートの問題点を考える
3. 新しいフローチャートの考え方を理解する
4. フローチャートをグループワークで作成する
5. 場合分け・並列処理・情報の流れ方の表現方法を理解する
6. 業務単位の切り出し方&業務マニュアルとの関係を理解する

《このような悩みを解消できる新しいフローチャートです》

・パワーポイントやVISIOなどの描画ソフトでの作成が前提となっており、修正等のメンテナンスが手間

・描画であるため、複雑な条件分岐や、多数の同時並行作業などを描くことが難しく、単純化された業務の概観を可視化できても、多岐に渡った「現実の業務」の可視化が難しい

・タスク(作業)のフローに焦点をあてており、ドキュメントや情報そのもののフローを理解しにくい

・タスク(作業)の粒度の定義が難しく描き手によって、属人的出来栄になる

※最少催行人数に満たない場合、開催中止となる場合がございます。

※講師と同業企業・同職種の方はご参加頂けない場合がございます。予めご了承ください。

裏面もご覧下さい! 一枚のパンフレットで 2種類のセミナーをご案内しております。